

古代薩摩の中心であった川内には、朝廷から派遣された役人が働く薩摩国府、仏教文化の象徴である薩摩国分寺がありました。鹿児島県内には2箇所、霧島市に大隅国分寺がありました。

薩摩国分寺

天平13年(741)聖武天皇の詔により、国家の平安を祈念して、諸国に建立された勅願寺のひとつです。薩摩国分寺の創建は奈良時代後期ごろとされています。

昭和19年(1944)に塔跡が国の史跡に指定され、昭和51年(1976)に寺跡が国の史跡に追加指定されました。



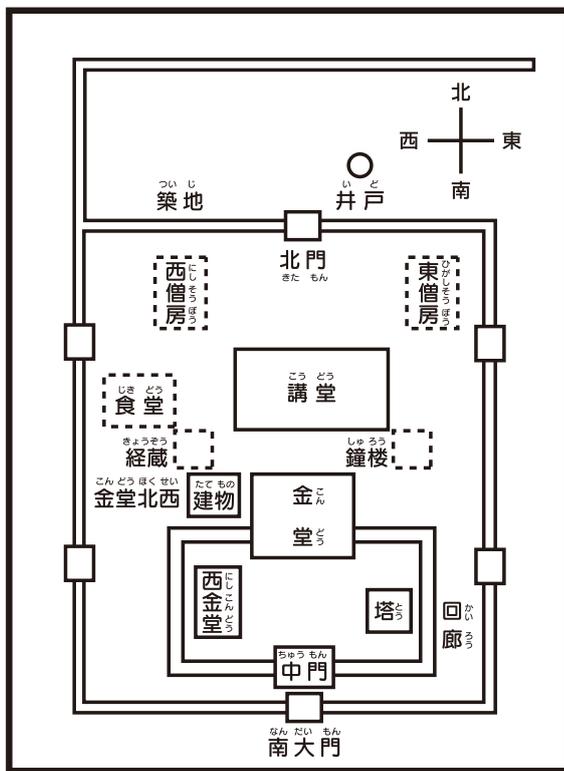
薩摩国分寺 創建当時 伽藍 想定図



金堂跡



中門



伽藍配置図



北門・築地塀



塔跡



塔跡 塔心礎

薩摩国分寺跡

薩摩川内市国分寺町大都字下台にあり、市街地の北方、国分台地と称される洪積台地の南端に位置します。同じ台地には、方6町の国府が想定され、その東に隣接する2町四方が国分寺跡とされます。

1町：約109m 国府：国の役所

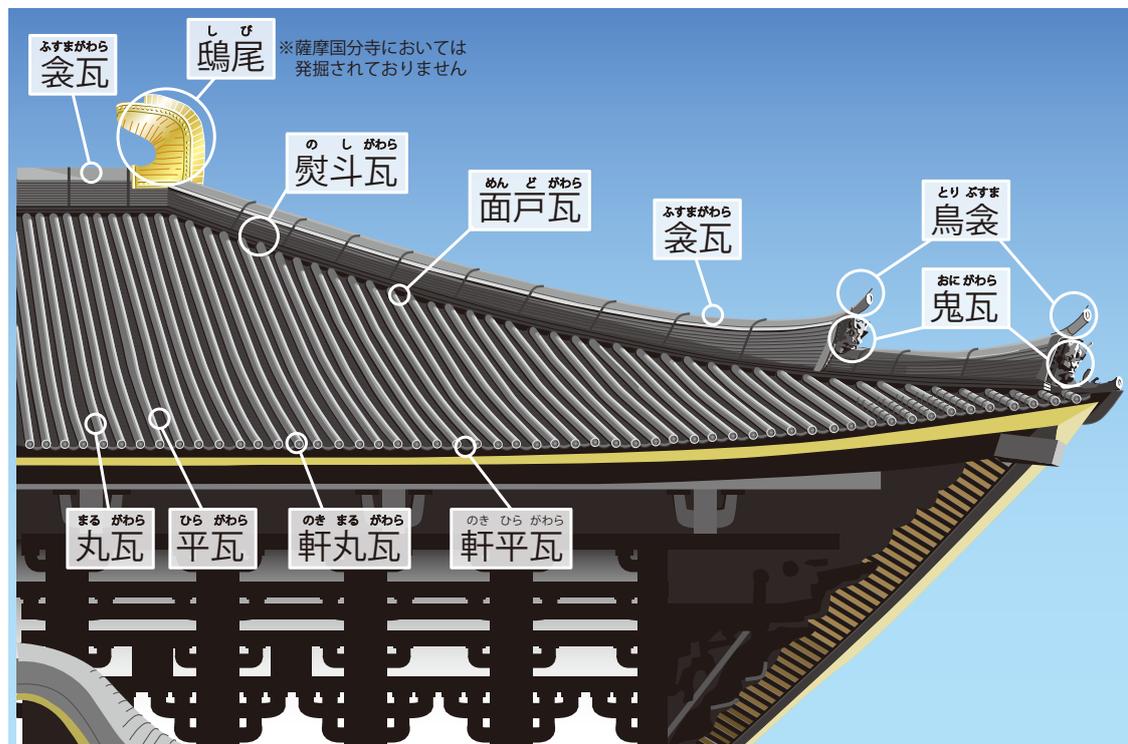
鶴峯窯跡

僧寺の北東約1キロの中郷町鶴峯に瓦を焼いた2基の窯があります。トンネル状の登り窯で、創建時の瓦が焼かれました。1号窯からは焼成中の丸瓦と平瓦が、2号窯からは、軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦などの特殊瓦が発見されました。ほかにも8世紀前半の須恵器窯が発見されています。

焼成：窯で焼くこと

てんじしつ てんじ しりょう み かわら なまえ い かんせい
 ■ 展示室で展示資料を見て、瓦の名前を入れて完成させよう。

瓦の種類



①



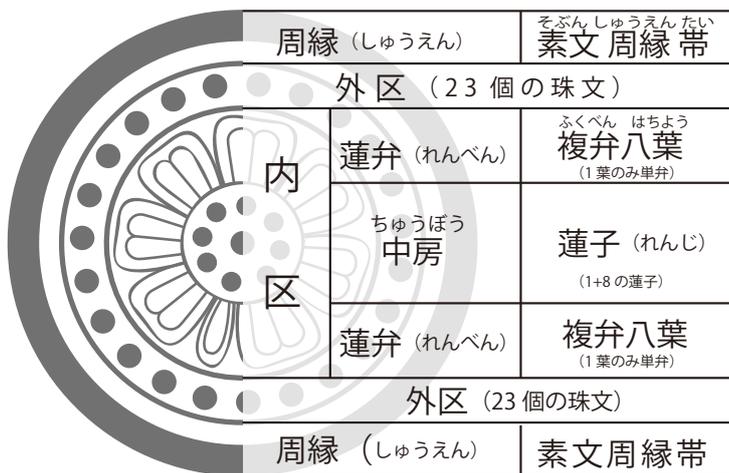
②



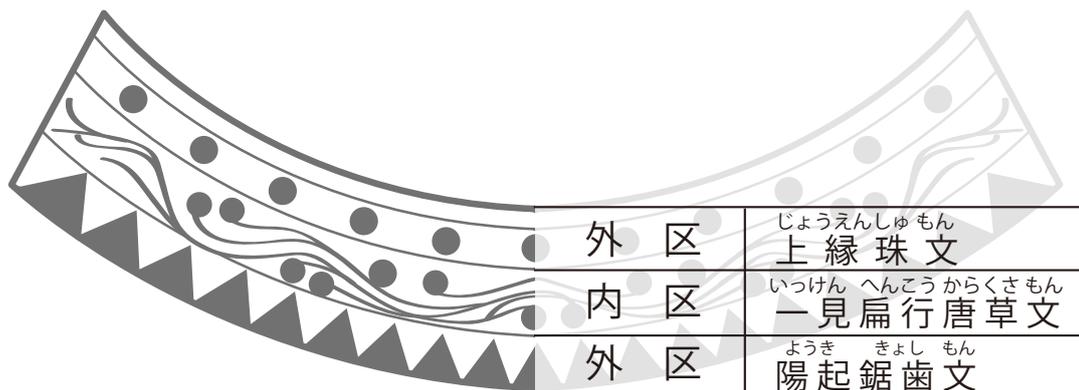
③

軒先瓦細部の名前

のき まる がわら
軒丸瓦



のき ひら がわら
軒平瓦



④



⑤



⑥